

## 海の冒険シリーズ① キッズ海のたんけんたい

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
20	31	20	19 (福井県6、滋賀県6、大阪府3、京都府2 愛知県1 兵庫県1)

### 2. 事業内容 (概要)

#### ◆ねらい

- ・小学校低学年の児童に海での自然体験や生活の場を提供して集団生活を行うことで、人間関係能力の育成と自主自立の精神を養う。
- ・スノーケリングを中心とした海での活動を通して、新しい発見をし、海に対する興味関心を高める。

#### ◆期日・期間

2013年7月20日(土)～ 2013年7月21日(日) 1泊2日

#### ◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都 各府県教育委員会

#### ◆参加者分析

- ・地元福井県を始め、中部圏、関西圏の広範囲からの応募があった。
- ・事業の内容、スタッフの人員配置を考慮し、学年、男女別の抽選を行い参加者を決定した。

#### ◆企画のポイント

7月 20日 (土)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
					受付	はじまりのつどい	移動	昼食	海のたんけんたい①	動力船で湾内見学	「海にさわる」	海のたんけんたい②	スノーケリング①	大浜・カッター栈橋	夕べのつどい	夕食	「自然をかんじる」	岩の沢く鏡崎
7月 21日 (日)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15								
	起床	朝食のつどい	朝食の掃除	移動	海のたんけんたい③	「海をかんじる」	スノーケリング②	大浜く潜堤	昼食	ふりかえ	おわりのつどい	解散						

- ・抵抗なく海に親しめるように、段階を追って活動を設定した。初日は浜歩き、波遊びを導入アクティビティとし、また、2日間の活動海域のイメージを持たせるために動力船による湾内見学を行った。
- ・プログラムの時間配分に配慮し、ゆとりを持って活動に当たれるようにした。

◆運営のポイント

- ・学年毎、男女比を考慮して班を構成し、グループ内での教え合いやリーダー性の発揮など学びの場が持てるようにした。
- ・子どもたちに自立、人間関係能力の育成、規律の確立を目標とし、「自分でできることは自分で」を徐々に示すとともにリーダーや職員の関わりについては十分に配慮をしていくこととした。

◆安全管理のポイント

- ・学生リーダーには海での活動について予知される危険なことについての事前指導を行いながら、2人の班付きリーダーを付けて、安全管理を行った。
- ・班付きリーダーとは別に、全体を見渡すことのできる安全管理の担当をおいた。
- ・熱中症対策を心がけ、水分補給が常に行えるよう準備し、いつでも対応ができるようにした。
- ・低学年ということもあり、健康チェックについては朝夕必ず行うようにして、異常のある児童については、看護師にチェックしてもらうようにした。

### 3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	88%	8%	5%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	84%	11%	5%	0%
この事業の運営はどうでしたか	58%	26%	16%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・見たことのない魚が見られた。
- ・スノーケリングがとても楽しかった。
- ・海に飛び込んだのが楽しかった。
- ・海の深いところはこわかったけど、行ってみると楽しかった。
- ・みんな友達になれてよかった。

### 4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 1泊2日の活動となり、海での活動（スノーケリング）が中心となった。参加者にとっては普段出来ない活動、普段触れることが出来ない海への関心を深めることができた。特に海に縁がない子ども達にとっては効果があった。アンケートの中でも海が好きになったと感想を書いている子がいた。
- ・ ボランティアを育てるという観点では4回生の姿をみて学ぶ下級生や異なる大学どうしでの交流が見られた。子ども達と接する姿は全員が子どもの目線で活動ができた。

(2) 課題

- ・ 1泊2日の活動は、「もう少しやりたい」という余韻を残した。人間関係や自立を促すためには、もう少し日程があってもよいと考える。
- ・ 参加者の実態によるが、自立を促すための、指導や関わり方を事業前、事業中と振り返り、その都度修正して関わる必要がある。

## 5. 活動の様子



海にさわる（1日目）



海になれる（1日目）



海になれる（1日目）



海になれる（1日目）



自然を感じる（1日目）



海を感じる（2日目）